

外問

小論文（外国学校出身者） 令和五年度

注意

- (1) 「解答はじめ」というまで開いてはいけない。
- (2) 問題は一冊(本文二〇ページ)、下書用紙は二枚、解答用紙は二枚である。下書用紙は問題冊子の中にはさみこんであるので引き抜いて使ってよい。
- (3) 全部の解答用紙に受験番号を書くこと。受験番号は次の要領で明確に記入すること。

(例) 受験番号 G9101 番の場合

G	9	1	0	1
---	---	---	---	---

- (4) 解答は解答用紙の所定の位置に書くこと。他の所に書いても無効である。字数などの指示がある場合は、その指示に従って書くこと。解答文はよこ書きとする。
- (5) 解答用紙の余白は採点者が使用するので、誤字脱字の訂正のほかには使ってはいけない。
- (6) 書き損じても、かわりの用紙は交付しない。
- (7) 試験終了後、問題冊子と下書用紙は持ち帰ること。

日本企業の雇用・人事の慣行の改革に関する以下の文章を読んで、後の問一～問三に答えなさい。

著作権保護の観点から、
公開していません。

著作権保護の観点から、
公開していません。

著作権保護の観点から、
公開していません。

著作権保護の観点から、
公開していません。

著作権保護の観点から、
公開していません。

著作権保護の観点から、
公開していません。

著作権保護の観点から、
公開していません。

著作権保護の観点から、
公開していません。

著作権保護の 観点から、公開 していません。

出典：伊丹敬之著『日本企業の復活力 コロナショックを超えて』（文春新書、二〇二一年）。ただし、本文の一部に改変および省略がある。

（注） 著者は一九八七年に公開した『人本主義企業』において、人本主義というコンセプトを提唱し、典型的な資本主義の仕組みと原理的に違う部分があり、かつ経済合理性が高いことが日本の成功の一つの原因だと論じた。人本主義とは「ヒトのネットワークを安定的・効率的に構成すること」を経済組織の編成の原理とする考え方である。

設問

問一 傍線部(ア)の内容について、米国と対比しながら本文に即して三〇〇字以内で説明しなさい。

問二 傍線部(イ)の理由について、三〇〇字以内で説明しなさい。

問三 傍線部(ウ)について、その「サイクル」から脱出するには、どういったことが必要かについて、あなたの考えを一〇〇〇字以内で論じなさい。ただし、本文で説明されているどの問題点(複数あってもよい)に対する処方箋なのかを、具体的に明示しながら論じること。